

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年12月25日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671000315
法人名	医療法人 圭裕会
事業所名	グループホーム サンテ・ヴィラージュ
所在地	鹿児島県指宿市東方8110番地1 (電話) 0993 - 24 - 2355
自己評価作成日	平成29年11月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年12月3日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\*看護師が2名常勤しており、医療連携病院の看護師と協力しながら、入居者の健康管理や異常の早期発見に努めている。また医療連携病院では、内科、精神科、眼科、整形外科などの専門医受診もでき、早めの相談や対応ができています。施設長が歯科医の為、日頃から定期的に関わり、口腔内の管理も徹底している。

\*散歩や外気浴などが、毎日の生活の一部となり定着している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は外出支援を心がけ、朝の体操・お茶会の次は散歩の日課になっており、利用者は、自ら散歩の準備を行い毎日同一コースを地域の方と挨拶を交わしながら、自分の目標としている距離まで散歩している。健康維持につながっている。
- ・施設長は、協力医療機関の歯科医師で、利用者の口腔治療や管理に取り組んでいる。
- ・医療連携体制が整い、内科・精神科・眼科・整形外科などの受診や職員看護師による健康管理も図られ、緊急時の対応にも連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・自治会に加入し、地域行事にも積極的に参加している。地域のふれあいサロンに参加し、認知症対策や情報発信の場となっている。
- ・災害対策として定期的な訓練と安全面に配慮した整備を行い、拡声器も設置して外部への通報に備えている。
- ・施設長や管理者は職員育成に力を入れ資格取得に支援している。職員間のコミュニケーションも良く、自らの資質向上に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開所当初から地域の一員であることを理念にしている。入所者がその人らしく安心して生活できるように、全員が目にしやすい場所に掲示して、日々実践できるように努めている。	独自の理念がある。玄関・ホール・事務室・トイレに掲示し、見直しも実施している。申し送り等で振り返り、月1回のカンファレンスで意識づけを行い、理念を共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、散歩の途中で挨拶したり、立ち話をしたりしている。また地域の方が取れたて野菜を差し入れて下さったり、避難訓練等に参加して頂いている。	町内会に加入し、回覧板等で地域と情報を交換している。ふれあいまつりや餅つきなどの地域行事に積極的に参加している。事業所の敬老会などの行事にも地域の人々の参加があり、避難訓練時は地域の協力を得ている。散歩時の挨拶、野菜の差し入れ、中学生の職場体験学習、ボランティアの受け入れなども行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の敬老会に参加して、グループホームについて話をさせて頂いたり、運営推進会議等で認知症について話したり、相談を受けたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に一回開催し、状況報告や行事報告、事故報告等を行い、問題解決やサービス向上に向け意見を出し合ったり、相談に乗ってもらったりしている。</p>	<p>会議は定期的に行っている。事業所の状況や事故報告・外部評価報告などを行い、参加者から多くの助言や提案があり、災害対策の組織作りを検討中である。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議で現状や取りくみを報告している。又必要時は電話や相談に出向いている。会議を通し顔見知りになることで、相談もしやすくなり、協力関係を築いている。</p>	<p>市担当者とは、電話や窓口に出向き更新手続きや事業所の実情など伝え、連携を深めている。事業所便りを届けたり、市主催の研修会にも積極的に参加している。運営推進会議に参加してもらい協力関係ができています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>勉強会を開き、身体拘束をせず見守りが出来るよう全員で取り組んでいる。玄関も夜間以外は施錠していない。職員間で情報を共有し、入所者同士も見守りをして声を掛け合い、グループホーム全体で取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルに沿って勉強会を実施し、職員の共通認識を図っている。言葉による拘束についても日々確認し配慮している。日中の玄関の施錠はせず、外出しそうな様子を察知したら、見守りや同行など職員間の連携で安全な暮らしを支援している。入居者同士も見守りをして声を掛け合っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、再確認しながら虐待防止に努めている。カンファレンス等で自分たちの言動を注意し合い、見過ごす事が無い様注意し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在活用している人はいない。勉強会をし知識を深めている。必要時は行政の支援を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時は、重要事項説明をしっかりと行っている。その際不安や疑問点を聴くよう努めている。又不明な点はその都度説明し、納得していただいている。また改正時は再度説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	投書箱を設置したり、家族へのアンケートを実施している。又運営推進会議に交代で参加していただいたり、年2回の家族会で意見や要望を聞く機会を設けている。要望は全員で協議したり運営者に報告し、改善に向け話し合っている。結果は運営推進会議や毎月のホームだよりで報告している。	利用者は入浴時や食事場面等で自由に要望や意見を職員に話している。家族に年に2回アンケートを実施し、集計後家族会を開き利用者・家族と食事をしながら運営に反映できるように取り組んでいる。面会簿を作るなど運営に反映させ、意見箱も設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月施設長も参加して全体カンファレンスを行い、職員の意見や提案を聴いてもらう機会を設け、改善に向け話し合っている。その結果を代表者へも伝えている。</p>	<p>カンファレンス等で職員の意見や提案を毎月施設長も参加して聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。勤務や介護備品・支援については、その都度解決できるようにしている。資格取得に向けての休みの調整や処遇改善などに反映している。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>毎月勤務実績を報告している。また資格取得を促し、資格や経験が給与に反映されるよう配慮している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月内部研修を実施し、外部研修へも交代で参加できるよう配慮している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の地域密着型サービス協議会やグループホーム協議会に加入し、交流会や研修会へも積極的に参加している。お互い相談し合い、他施設との関係もよくなっているが職員レベルでの勉強会が少ない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時や入所が決まった時、訪問したりホームに来て頂き、本人と面談しゆっくり話を聞くよう心がけている。中々本人から、はっきりした困りごとは聞けないが、少しでも安心して入所して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談し、問題点や不安な事など聞き、少しでも安心して入所していただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、必要なサービスを受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意識を持ち、人生の先輩から学ぶという姿勢で、共に生活している。教えあったり励ましあったり、喜怒哀楽を分かち合える関係を築いている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月個別のお手紙をお渡しし、面会時は状況報告を随時行っている。職員がすべてを支援するのではなく、ご家族様に出来ることはして頂き、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族、親戚の方など、これまでの関係が途切れないよう、面会に来ていただいたり、外出の機会を設けたりしている。時々自宅近くまでドライブに行ったりして、喜ばれている。	親戚や友人・知人の面会が多い。一緒にお茶を飲んだり、自宅周辺へのドライブや買い物を楽しむなど継続的関係を支援している。家族の協力です食・墓参などの際に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士の関係を見ながら、席の配置を替えている。状況に応じ席替えをしたり、テーブルの向きを変えて様子を見ている。入所者同士がお互い声を掛け合い、集合したり見守りしたりされている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も他施設や病院などへ、面会に行ったり亡くなった方にはお参りに行ったりしている。入院されても軽快後再入所できるよう配慮している。退所後も家族の方が立ち寄りたり、野菜を届けて下さる方もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に本人の言葉に耳を傾け、自分で意向を発せない人は、表情や言動を日頃から観察したり、スタッフ間でも情報を共有し希望や意向の把握に努めている。	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情・しぐさなどから思いや意向の把握に努めている。職員間でも情報を共有している。困難な場合は、家族からも情報を得、利用者の視点に立って本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に担当者から連絡票をもらったり、本人や家族から経過を聴いている。その時わからないことも、入所後に生活する中で少しずつ把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の経過を記録し、職員間では朝夕の申し送りやケースカンファレンス等で情報を共有し、日々の変化に気を配りながら、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間は毎月のケース検討で意見を出し合っている。医師や看護師、関係者とも連絡を取りながら、3ヶ月毎のモニタリングと通常6ヶ月毎の介護計画の見直しを行っている。	利用者・家族の意向に沿った介護計画を作成している。毎月のケース検討会の意見を参考にして担当者会議で話し合い個々に応じた計画を作成し、3ヶ月毎のモニタリングと6ヶ月毎の見直しを行っている。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に日々の様子を記録して申し送りで情報を共有している。毎月のカンファレンスで、その時々の問題点や注意点を洗い出し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、買い物や受診の同行や送迎など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練などで、地域の方の協力を得ている。またボランティアを受け入れ、歌や踊り、車椅子ダンスなど楽しまれている。中学生の職場体験学習受け入れや市社協主催のボランティア体験受け入れなど、機会があれば実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で、主治医を決めている。家族の協力をもらいながら専門医の受診をしたり、送迎をして適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は本人や家族の希望を大切にしている。関連機関への受診や歯科は職員が同行している。家族同行の受診時には情報提供書を作成し持参してもらっている。受診結果は家族と共有している。職員看護師の健康管理や協力医との連携も図り、緊急時の対応など連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化が見られたら、ホーム内の看護師の指示を仰いでいる。また緊急時は、医療連携病院の看護師と相談しながら、利用者が適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は付き添い情報を伝えたり、介護サマリーを提出している。入院後は面会に行き、状態把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の方針を聴いたり、ケアプランに意向確認を乗せている。心身の状態に応じては入所を継続することは難しく、グループホームで出来る事出来ない事を説明し、段階的に他施設や病院等紹介して転所の手続きをとる場合があることを説明している。	入所時に終末期の方針を説明し同意を得ている。病状の段階に応じ、医師より家族に説明し話し合いをして家族の意向に沿った対応をしている。事業所での看取りの希望があれば、方針に基づいた支援をしている。看取りの事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急隊に来てもらい、救急法の講習を受けている。また緊急時のマニュアルを作り、対処法の周知を図っている。事故発生後は、マニュアルの確認を再度行い、再発防止に向け話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導の元、避難訓練を実施している。地域の方の参加協力を得て、ホームの現状を知ってもらい、有事の際協力が得られるようにしている。新聞記事などを教訓に、勉強会で話し合っている。地震や水害のマニュアルも作り、外への避難のみでなく2階への避難訓練等も実施している。</p>	<p>消防署立会いのもとで年2回、避難訓練を実施している。地震水害のマニュアルも作成し、2階からの避難訓練も実施している。スプリンクラーや自動通報装置も設置し、拡声器も設置し外部への通報に活用している。地域との協力体制もできている。災害時の水・米・缶詰等の備蓄やカセットコンロなども用意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時のノックや声かけ、更衣やトイレ時は必ず戸を閉めるなど、日々気をつけながら支援している。また対応時の言葉使いなども注意し、同じ話の繰り返しもその都度対応している。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないケアに取り組んでいる。入室時の声かけやトイレ誘導時は羞恥心に対する配慮を行い、呼び名は「さん」付けなど個々に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の流れに沿って、声かけをしているが、その日の体調や様子を見ながら、参加を促している。又レクリエーション、散歩、ドライブなど本人の希望を聞きながら実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の特性を活かしながら、本人の希望とペースにあわせ、生活の中に組み込んでいる。何をしたいか確認しながら、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	髪型や洋服の変化を誉め、おしゃれ心を失わないように努めている。日々の服装も本人の好みを聞きながら、自分で選んでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握し、食材や味付けを変えている。食材の下ごしらえ、後片付けなど力量に合わせ、参加できるようにしている。	旬の食材で、利用者の希望を取り入れた献立や食事形態を工夫している。後片付けなど職員と一緒にいたりしている。一人ひとりの誕生日にはケーキを作り、写真撮影をしている。弁当を中庭で食べたり遠足に出かけたり、季節の行事食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立を元に、バランスのとれた食事を提供し毎食の摂取量を記録している。利用者により量や形態を考慮し、食事姿勢も整え、安全な食事になるよう注意している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に応じ、毎食後の声かけや介助を行っている。残歯のある方は週1回の歯科受診にて、メンテナンスをしてもらっている。総義歯の方も義歯消毒をを行い、歯ブラシなどの道具の清潔にも気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人の排泄パターンに合わせて、トイレの声かけや誘導をしている。季節でも異なるが、ショーツ利用を促し、オムツ外しに取り組み、その時の体調や状況に応じて、見守りや介助など細かく対応している。	排泄のリズムを把握し、必要に応じての声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立を支援している。その時の体調等に応じ布パンツ使用を促し、オムツ外しに取り組んでいる。排泄後の清潔保持も大切にしている。改善がみられた例では、本人や家族の喜びも大きい。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事、水分摂取、運動など心がけている。緩下剤を用いている方は、排便リズムの観察をし、排便状態を確認して量の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日や時間は概ね決まっているが、当日の体調や本人の希望により変更し、その人に合わせた温度や時間で利用者が楽しめるような話題に触れながら楽しく入浴出来るよう支援している。	週に3回午後に温泉での入浴を行っている。浴槽から庭が見えのんびりと楽しむことができる。入浴を嫌がる利用者には家族の協力や施設長の励ましで、上機嫌で湯船につかる姿があり、個々に応じた湯温やタイミングも把握し支援している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	本人の訴えに耳を傾け、休んで いただいたり、状態を見て臥床 を促したりしている。居室環境 を整えたり寝具調整を行ったり しているが、夜間不眠を訴える 方は、安定剤や入眠剤を服用さ れる方もいる。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や 副作用、用法や用量について理解して おり、服薬の支援と症状の変化の 確認に努めている	薬状書を同封し、医師の指示通 り服用できるようにしてある。 状態変化時は主治医と相談し早 めに対応している。誤薬防止の 為、日付を入れたり、落下や紛 失を防止するため個々に合わせ た内服確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活暦や力を 活かした役割、嗜好品、楽しみごと、 気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力量に合わせて、 それぞれにあった役割を見出 し、力を発揮できるよう声かけ している。色々なイベントに参 加したり見学したり、毎月の行 事を楽しまれている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるように支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人 々と協力しながら出かけられる ように支援している。	一人一人の体調や力量に合わせ て、距離を考慮しながら、雨天 や受診日以外は散歩している。 遠方へは、家族や友人の支援を 受け外出されている。日曜日 には、天候に合わせてドライブ を楽しまれている。	日常的には四季折々の花が咲く 歩道を散歩している。利用者の 希望でドライブや買い物・自宅 周辺へ行くことも多い。計画を 立て弁当持参で花見や観音様祭 りなどにも出かけている。家族 の協力での外出・外食・墓参 などにも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現在自己管理されている方はいないが、一緒に買い物に行き、希望の品を購入したりされている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>不安な言動があるときは、家族に電話し話をして安心していただいている。また本人の希望があれば、いつでも取次ぎをしている。手紙や年賀状なども、投函や住所の確認など支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>トイレや廊下など手すりをつけ、利用しやすいよう工夫している。食堂の壁には季節を感じられるような飾りをし、季節の花を生け楽しんでいる。カーテンやブラインド、ヨシズなどで光の調節をし、温度管理も行っている。中庭には、季節の野菜や果樹を植え、収穫を楽しみにされている。</p>	<p>共用の空間は広々として、採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。ホールの壁には利用者の写真や季節感を大事にした花を飾っている。畳のスペースもある。中庭には野菜や柿などの果樹を植えて窓から眺めたり、収穫の楽しみを待ちながら、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自席やソファなどできつろがれたり、隣同士でお話されたり、お互いの部屋を行き来し話をされている。 玄関や中庭のベンチなどで、語らう場面も見られる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家から椅子や飾りを持ってきてもらったり、家族の写真や自分の作品を掲示したりして、心地よく本人が安心できる場所となっている。自己にて模様替えをされ、飾りやタンスの位置を変えて楽しめる方もある。</p>	<p>居室は掃き出し窓で、ベランダや中庭に自由に入出りできる。電動ベッド・クローゼット・洗面台が備え付けである。寝具やテレビ・タンス・椅子・時計・本・遺影・写真など使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりをつけたり、トイレなどの案内を大きく表示したり、少しでも自分で分かるよう工夫している。居室入り口には、写真入のプレートを下げ、本人が自分で確認できるようにしている。活動導線に危険物や障害物が無いか、常に気配りをしている。</p>		

V アウトカム項目 (1階)

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない